未来につなぐ、私たちのストーリー

株式会社
川小商店

×

街の鼓動に敏感です
朝日信用金庫

2026年11月17日

「サステナビリティ・リンク・ローン」による融資契約締結について

朝日信用金庫(本部 東京・千代田区／理事長 伊藤康博、以下「当金庫」)は、持続可能な地域社会の実現と、お客さまの脱炭素経営への取り組みに貢献するため、2026年11月17日(火)に以下の事業者さまと「サステナビリティ・リンク・ローン(以下「SLL」)」の契約を締結したことを、お知らせいたします。

当金庫では今後も、持続可能な地域社会の実現に金融面から貢献するため、さまざまな金融サービスを通じて、お客さまのニーズにお応えできるように努めてまいります。

【企業概要】

事業者名	株式会社川小商店
代表者名	齊藤　浩一
本店所在地	東京都台東区駒形2-1-26
事業内容	和菓子製造・小売
設立	1975年1月
会社HP	https://www.oimoyasan.com

【契約概要】

契約日	2026年11月17日(火)
取扱店	浅草雷門支店：東京都台東区浅草2-1-13
KPI	当社におけるCO_2排出量の削減率(Scope1＋Scope2)
SPT	CO_2排出量の削減
フレームワーク	朝日信用金庫サステナビリティ・リンク・ローンフレームワーク (株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得)

SLLとは、事前に定めた重要な評価指標(KPI)に対して、野心的なサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPT)を設定し、SPTの達成状況に応じて金利が変動する融資商品です。朝日信用金庫のSLLは、お客さまとともに「脱炭素(カーボンニュートラル)」を目指していくため、KPIを「CO_2排出量の削減率」、SPTを「CO_2排出量の削減」として設定し、その達成状況に応じて金利が変動する仕組みとしています。

なお、朝日信用金庫が策定したサステナビリティ・リンク・ローンフレームワークは、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センターより、サステナビリティ関連の原則等に整合しているとの評価を得ています。

事業者の「想い」

かつて何度も飢饉のたびに人類を救ったさつまいもを通じて、
豊かな社会づくりに貢献していきたい。

私たちは1876年の創業以来、
さつまいも問屋として、「おいもやさん興伸」として、
安全かつ美味しいさつまいもを
皆さまの食卓にお届けしてまいりました。

このまま地球温暖化が進むと、
さつまいもだけではなく、日本の食卓、ひいては日本の食文化が、
脅かされてしまいかねません。

そのような状況を少しでも改善するため、
私たちは新たに、
脱炭素への取り組みを進めてまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS











【 事業者さま(以下「当社」)について 】

＜当社の概要＞

当社は、1876年(明治9年)に東京・駒形にてさつまいもの卸売業を主業として創業。

関東大震災・東京大空襲による被災、また太平洋戦争当時の諸類配給統制による休業などの幾多の苦難を乗り越え、さつまいも一筋で事業を展開してきました。1984年には駒形にさつまいも菓子専門店「興伸」をオープンし、現在は東京都内7店舗のほか、百貨店などの各種催事や通信販売により、「安全・安心と、美味しさ」を守り抜いた芋菓子を消費者の方たちへお届けしています。

また、当社の「大学芋」「スイートポテト」「芋ようかん」「さつまいもマフィン」などの主力商品は、子会社である株式会社カワコファーム(千葉県香取市)の自社工場にて製造していますが、その原材料の大半は近隣の自社農場で生産されたさつまいもにて賄われています。さつまいも問屋の時代から培われた「さつまいもの品質を見極める目利き力」、生産→製造→販売を自社で手掛ける「一気通貫体制」、さつまいもの品種が変化しても従来の味を守り続けられる「製造ノウハウ」により、150年に亘る歴史を積み重ねてきました。

《浅草仲見世店》



《浅草伝法院東通店》



《浅草雷門店》



《浅草オレンジ通り店》



《浅草駒形店》



《大丸東京店》



《巣鴨店》



《香取市・自社工場》



《香取市・自社農場》



《大学芋》



《スイートポテト》



《芋ようかん》



《さつまいもマフィン》



＜当社の企業理念及び経営方針＞

当社は、以下の企業理念及び経営方針を掲げています。

企業理念

- ✓ **生産者、流通者、メーカーが三位一体となって、安全・安心、よりよい商品を提供できる環境を整備していきます。**
- ✓ **誰もが満足できる商品・サービスを創造し、提供していきます。**
- ✓ **かつて何度も飢饉の度に人類を救った「さつまいも」を通じて、豊かな社会づくりに貢献していきます。**
- ✓ **生産者の再生産価格の維持を支えていきます。**

経営方針

- ✓ **安心・安心なさつまいもから産み出した「高品質な芋菓子」をお客さまに届ける。**
- ✓ **より多くのお客さまに「おいもやさん興伸」の伝統の味を届ける。**
- ✓ **そのために、川小商店は「強く、人に優しい会社」であり続ける。**

当社は、古くは飢饉のとき、また戦中・戦後の食糧難の時代に重要な役割を果たした「さつまいも」を何よりも大切にしています。また「安全・安心」にこだわり抜いた結果、「自社農場による生産」、「自社工場による製造」にたどり着きました。さつまいもは品種改良を重ねており、品種ごとに食味は大きく異なりますが、当社は食味の変化に順応し、その商品はお客さまから「昔から変わらぬ味」として親しまれています。 その裏側には、品種ごとに異なるさつまいもの食味を理解したうえで、伝統の味を保つために微妙に調味料の配合を調整する熟練の職人技があります。当社にとっては「伝統の味を守る」＝「変わり続けること」であり、その素材へのこだわりやさつまいもに対する目利き力、伝統の味を守るための職人技などが相まって、150年の歴史の積み重なりへとつながっています。

【 当社のサステナビリティ方針について 】

当社は、今まで公表こそしていませんでしたが、SDGsの「12　つくる責任　つかう責任」につながる「店舗での商品廃棄率の低減」に全社を挙げて取り組んでおり、昨年度の実績では店舗での商品廃棄率は1%を切る水準となっています。しかしながら、昨今の気候変動による台風や豪雨がさつまいもの生産にも看過できない影響を及ぼしていることから、国産のさつまいもの安定した生産体制を守るためにも地球温暖化の抑制にも貢献すべきではないか、という問題意識を持っていました。したがって、新たに「脱炭素」という目標を掲げることで、「人類の危機を幾度となく救ってきたさつまいもと、日本の豊かな食文化を守るため、地球温暖化の抑制、ひいては持続可能な地域社会の実現に貢献することは、当社の企業理念にも通ずるものであり、そのことを明確にしていきたい」と考えています。

＜気候変動に対する考え方、対策および方針＞

当社は、気候変動が引き起こす自然災害が、自社の事業活動に大きな影響を与える可能性がある重大な課題であるとの認識に基づき、以下の取り組みを進めてまいります。

✓CO_2排出量の削減
✓エネルギー消費量の削減
✓再生可能エネルギーの活用を検討
✓環境に関する法令等を遵守

＜取り組み目標＞

当社は、以下の目標を掲げています。

✓長期目標として、2050年度までに「カーボンニュートラル」を達成
✓短期目標として、ローン期間中4.2%／年相当のCO_2排出量の削減

【 当金庫の評価 】

食品業界全体がサステナビリティ経営への取り組みを強化する中、有事の際には主食としても転用可能なさつまいもの生産を手掛ける当社は、脱炭素を自社の課題として捉えており、SLLにおけるSPTのほか、自社のサステナビリティ方針において、地球温暖化に対する高い問題意識と、CO_2排出量削減に向けた対策及び取り組み方針が示されています。また、具体的な取り組み目標を掲げており、今後は適時、適切に対外開示されます。

当金庫は、当社の環境課題解決へのお取り組みに敬意を表し、またそのお取り組みに貢献するために、SLLの融資契約を締結いたしました。

今後も当社のお取り組みに貢献できるよう、努めてまいります。

以　上

《 本リリースに関するお問合せ：朝日信用金庫　融資業務部　髙木　 TEL 03-3862-7929 》